

特色ある教育による 今日的教育課題へのアプローチ

～地域を知る・世界に目を向ける・
多様性を尊重する～

地 域 の
特 色 あ る
活 動

山梨県山梨市教育委員会

1 はじめに

山梨市は、甲府盆地の東部に位置し、笛吹川とその支流がもたらす肥沃な土地の恩恵を受け、なだらかな斜面や平坦地に広がる桃・ぶどうの果樹園は美しい景観を織りなすとともに、県内有数の生産量を誇っています。

2022年には本市を含む峡東地域の果樹農業システムが世界農業遺産に認定されるなど、ブランド化が進む果物、さまざまな産業、豊富で良質な水、澄んだ空気、文化・教育・歴史などが息づき、首都圏にも近いという地域的優位性など、いずれをとっても大きな発展を秘める恵まれた地域です。

2 山梨市における特色ある教育の展開

山梨市教育委員会は、教育長及び5名の教育委員によって構成されており、加速化、複雑化する教育課題への対応に向け、前例踏襲や形骸化した事業を見直し、新たな視点や考え方に基づく教育行政を推進していくことを基本理念としています。

今回は、「山梨市 ECHOES（エコース）学習」「ALT への特別免許の授与」「中学校制服の選択肢拡大」の3つの取組についてご紹介します。

(1) ECHOES 学習の提唱

「山梨市 ECHOES（エコース）学習」は、本市独自の学び（教育課程上は総合的な学習の時間を充当）として、「市内にある素材・人材・フィールドを活用した教科横断型・総合的な学習を通して、学ぶことの楽しさを味わうとともに、互いの考えや想いに共鳴し合い、共感し合える児童・生徒の育成を図ること」を目的としています。

合的な学習を通して、学ぶことの楽しさを味わうとともに、互いの考えや想いに共鳴し合い、共感し合える児童・生徒の育成を図ること」を目的としています。



「ECHOES 学習」が導入された背景には、①探究型・体験型学習の充実、②地域や企業との連携、③系統的な学習内容の構築の3つが挙げられます。

①に関しては、「自ら考え、判断し、具体的に行動することができる児童・生徒の育成」においては、体験を伴う探究的な活動の充実が不可欠であること、②に関しては、「総合的な学習の時間」に割り当てられた時数のうち15～20時間程度の内容を地域や企業・団体に委ねることで、教師の負担軽減を図ること、③に関しては、個々の教師の意欲や経験によって授業の質や内容に差が生じることを解消し、学習する内容や活動に系統性を持たせることをねらいとしています。

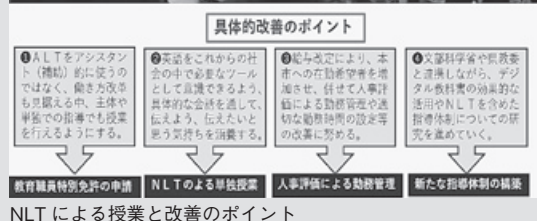
(2) 特別免許の取得による授業改善

本市では、7名のALTを雇用し、市内の小・中学校（小8校、中3校）に配置していますが、ALTの効果的な活用と授業への積

極的な関わりをねらいとして、県教育委員会へALTへの「特別免許状」の授与を申請しました。

その結果、小学校（英語）の特別免許を取得することができ、名称も「ALT」を改め「NLT（Native Language Teacher）」に変更したところです。これには、従来のアシスタント（補助）的な立場から脱却し、これまでよりも積極的に教材研究や授業に関わってもらいたいという願いが込められています。

NLTへの変更後は、本市でNLTとして勤務したいとの問い合わせも増えていることから、指導経験があり、英語教育に意欲的な人材を確保する上でも、特別免許取得によるNLTの配置は、大きな可能性を秘めていることを実感しています。



（3）中学校制服選択肢の拡大

中学校の制服の在り方については、ここ数年、多様性の尊重、経済的な負担軽減、暑さ対策等、様々な観点からの改善・検討が各地で求められており、市内の3つの中学校においても、学校の創立以来、男子は詰襟の学ラン服、女子はセーラー服（スカート）の状況が続いていました。

こうした現状を踏まえ、市では制服の自由化に向けた取組を令和4年6月にスタートさせ、学校にあっては、アンケート等により、生徒や保護者の考えや不安を把握するとともに、教職員の意見や考えも踏まえながら、複数回に渡り、市教委との打ち合わせを行って

きました。

この結果、当初は結論が出るまで1年以上はかかるだろうと思っていた予想に反し、わずか半年で、本市における制服の在り方をまとめることができました。その具体的な内容としては、以下の通りです。

○これまでの詰襟やセーラー服も認めつつ、ブレザーやスラックス、ポロシャツも可とする。

○購入に関しては、量販店で販売されているものでも兄弟が高校で使っていたものも可とする（高校のエンブレムは外す）。

○色や柄については、細かく規定しないが、紺・黒・白など単色のものが望ましい（保護者からの要望）。

さらに、全国や県の不登校者数が3割前後も増加する中で、本市の今年度の不登校者数は減少していることから、制服の選択肢拡大が、中学校生活に関して子どもたちが感じていた「目に見えない不安や重圧の解消」の一助になったのではないかと考えています。

3 おわりに

教育を取り巻く環境が激しく変化し、想像以上の速さで進んでいく現在、従来に増して教育委員会としてのマネジメント機能やリーダーシップが希求されています。

今後は、教育委員会としてのビジョンや方向性をよりわかりやすく、具体的に示すことによって、各学校（学校長や教職員）と共有していくことに努めていかなければと感じているところです。

教育長
嶋崎 修

